

報道関係者 各位

平成 29 年 9 月 15 日

【照会先】 保険局調査課

課長 山内 孝一郎（内線：3291）

数理企画官 仲津留 隆（内線：3293）

担当係 医療機関医療費係（内線：3298）

電話：03-5253-1111（代表）

03-3595-2579（直通）

「平成 28 年度 調剤医療費（電算処理分）の動向」を公表します

厚生労働省では、毎年、調剤医療費の動向及び薬剤の使用状況等を把握するために、電算処理分のレセプトを集計し、「調剤医療費（電算処理分）の動向」として公表しています。このたび、平成 28 年度の集計結果がまとまりましたので公表します。

【調査結果のポイント】

- 平成 28 年度の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 7 兆 4,395 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲4.9%）であり、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,015 円（伸び率▲5.6%）であった。
その内訳は、技術料が 1 兆 8,490 億円（伸び率+1.1%）、薬剤料が 5 兆 5,778 億円（▲6.7%）、特定保険医療材料料が 128 億円（+0.9%）であり、薬剤料のうち、後発医薬品が 8,636 億円（+1.6%）であった。【表 1、表 2】
- 処方せん 1 枚当たりの調剤医療費を年齢階級別にみると、年齢とともに高くなり、75 歳以上では 10,948 円と、0 歳以上 5 歳未満の 3,250 円の約 3.37 倍であった。【表 3】
- 後発医薬品割合は、平成 28 年度末で数量ベース（新指標）が 68.6%であり、年度平均でみると、数量ベース（新指標）が 66.8%（伸び幅+6.8%）、薬剤料ベースが 15.5%（+1.3%）、後発医薬品調剤率が 67.0%（+3.9%）であった。【表 4】
- 内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料の伸び率は▲8.6%となっており、この伸び率を「処方せん 1 枚当たり薬剤種類数の伸び率」、「1 種類当たり投薬日数の伸び率」、「1 種類 1 日当たり薬剤料の伸び率」に分解すると、各々▲0.9%、+1.5%、▲9.1%であった。【表 5】
- 平成 28 年度の調剤医療費を処方せん発行元医療機関別にみると、医科では病院が 3 兆 766 億円（▲6.6%）、診療所が 4 兆 3,389 億円（▲3.5%）であり、平成 28 年度末の後発医薬品割合は、数量ベース（新指標）で、病院が 69.0%（伸び幅+5.9%）、診療所が 68.4%（+5.3%）であった。また制度別でみた場合、最も高かったのは公費の 73.4%（+5.5%）、もっとも低かったのが後期高齢者で 66.4%（+5.9%）であった。【表 14、表 15】
- 平成 28 年度末の後発医薬品割合を、数量ベース（新指標）の算出対象となる医薬品について、薬効大分類別にみると、薬効大分類別の構成割合が最も大きい消化器官用薬は 80.3%、次いで大きい循環器官用薬は 69.3%であった。【表 16】